

## 第 80 回「山形県内企業の景気動向調査」速報

(令和 6 年 8 月調査)

～ 景況感は足踏み状態。先行きには期待感 ～

### 【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲14.0 (前回調査比 3.5 ポイント下落)と **2 期ぶりに悪化となった**。「各種 D I 値 (前年同期比)」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の 3 項目で悪化となった。「人員・人手」はプラス幅がやや縮小した。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、建設業が▲23.4 (前回調査比 5.9 ポイント上昇)、製造業が▲15.0 (前回調査比 5.5 ポイント下落)、卸・小売業が▲16.1 (前回調査比 0.7 ポイント上昇)、サービス業が▲1.3 (前回調査比 16.1 ポイント下落)と、建設業と卸・小売業で改善となった一方、製造業とサービス業で悪化となり、サービス業はマイナスに転じた。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」をみると、村山南部が▲9.2 (前回調査比 4.1 ポイント下落)、村山北部が▲8.9 (前回調査比 4.8 ポイント下落)、最上が▲18.9 (前回調査比 1.2 ポイント下落)、置賜が▲12.2 (前回調査比 0.4 ポイント下落)、庄内田川が▲23.1 (前回調査比 1.5 ポイント下落)、庄内飽海が▲12.3 (前回調査比 6.4 ポイント下落)と、置賜はほぼ横ばいの推移、その他の 5 地域は悪化となった。
- **先行き見通し**は「自社の業況 D I 値 (前年同期比)」が▲11.5 (今回調査比 2.5 ポイント上昇)と小幅ながら改善の見込みとなっている。

### 【特別調査】

- **設備投資動向**について尋ねたところ、全業種でみると、「実施する (した)」と回答した企業の割合は 35.7%と、前年度に比べ 4.8 ポイントの低下となった。一方、「実施しない」は 48.4%と 6.6 ポイントの上昇となった。

令和 6 年 9 月

株式会社 フィデア情報総研

# 目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	4
③	卸・小売業	5
④	サービス業	6
3.	地域別の動向	7
(1)	地域別の概況	7
(2)	地域別 D I 値の動向	8
①	村山南部	8
②	村山北部	9
③	最上	10
④	置賜	11
⑤	庄内田川	12
⑥	庄内飽海	13
II.	景気の天気予報図	14
III.	特別調査	15
1.	設備投資動向について	15
(1)	設備投資動向	15
(2)	設備投資金額	18
(3)	設備投資目的	19
(4)	設備資金調達方法	21
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>		22
<参考資料 II : 調査の概要>		22

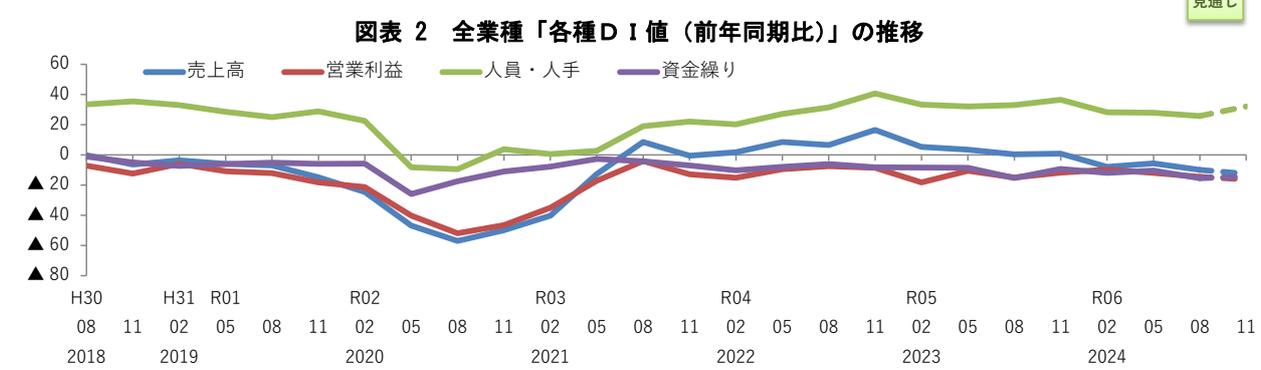
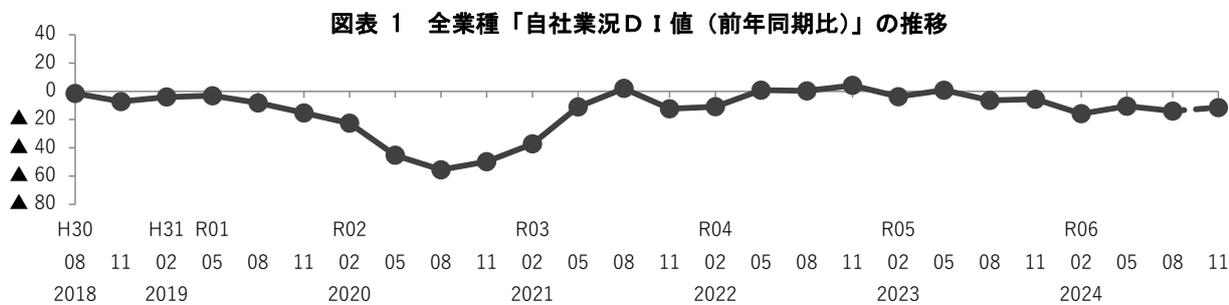
## I. 県内企業の業況

### 1. 概況

県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況D I 値（前年同期比）」が▲14.0（前回調査比3.5ポイント下落）と2期ぶりに悪化となった。「各種D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目で悪化となった。「人員・人手」はプラス幅がやや縮小した。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値（前年同期比）」が▲11.5（今回調査比2.5ポイント上昇）と小幅ながら改善の見込みとなっている。

人件費や原材料費などのコスト高による企業の負担感は依然強く、総じてみれば足元の景況マインドは持ち直しの動きが弱まり、足踏み状態となった。先行きについては、海外情勢や為替相場の動向を注視しつつ警戒感を持つ慎重姿勢が今後も続く。一方で、押し上げ要因として円高傾向や賃上げ効果の波及が挙げられ、回復への期待感もうかがえた。



前年同期比の自社業況D I 値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 05. 08 (n=373)	▲ 6.4	(▲ 7.2)	▲ 7.1	0.3	▲ 15.0	33.0	▲ 15.3
R 05. 11 (n=356)	▲ 5.6	(0.8)	▲ 6.4	0.8	▲ 11.8	36.5	▲ 9.3
R 06. 02 (n=365)	▲ 15.9	(▲ 10.3)	▲ 13.2	▲ 8.0	▲ 9.8	28.3	▲ 12.0
R 06. 05 (n=374)	▲ 10.5	(5.4)	▲ 15.4	▲ 5.6	▲ 12.0	28.0	▲ 10.4
<b>R 06. 08 (n=364)</b>	<b>▲ 14.0</b>	<b>(▲ 3.5)</b>	<b>▲ 10.2</b>	<b>▲ 9.9</b>	<b>▲ 14.6</b>	<b>25.8</b>	<b>▲ 15.4</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 4.3)	(▲ 2.6)	(▲ 2.2)	(▲ 5.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 11.5</b>	-	-	<b>▲ 12.6</b>	<b>▲ 16.2</b>	<b>32.1</b>	<b>▲ 14.3</b>
今回調査比	(2.5)	-	-	(▲ 2.7)	(▲ 1.6)	(6.3)	(1.1)

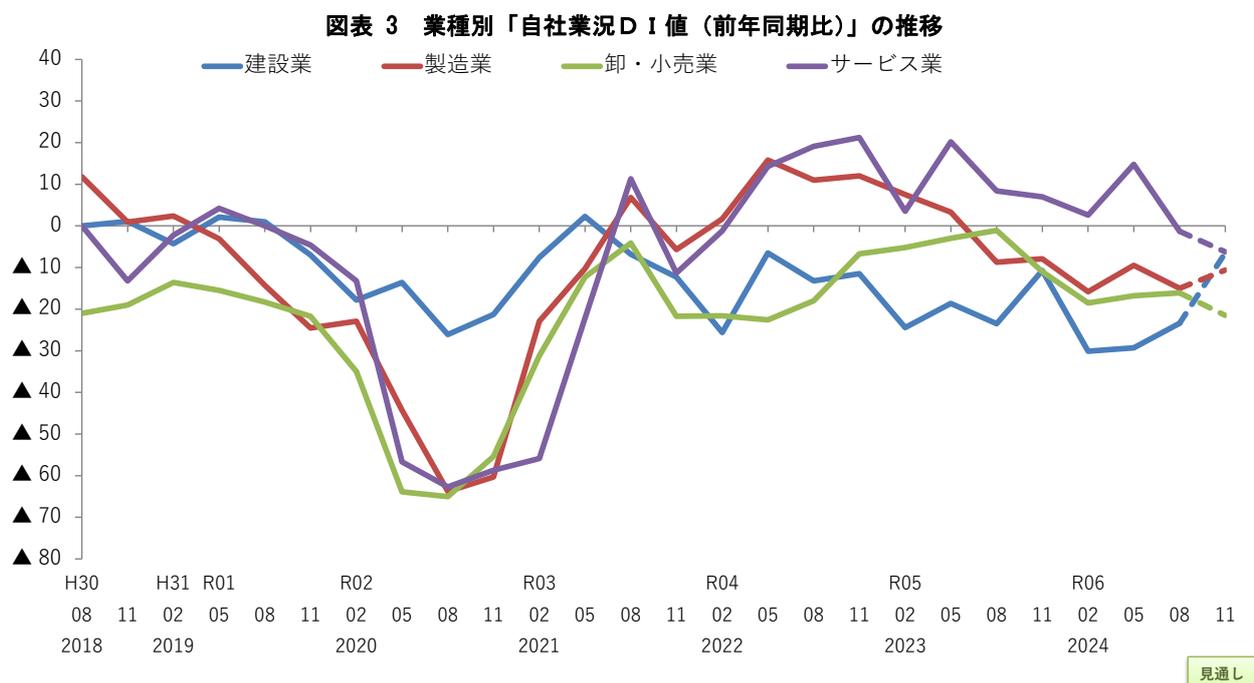
※「売上高」D I 値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

## 2. 業種別の動向

### (1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲23.4（前回調査比 5.9 ポイント上昇）、製造業が▲15.0（前回調査比 5.5 ポイント下落）、卸・小売業が▲16.1（前回調査比 0.7 ポイント上昇）、サービス業が▲1.3（前回調査比 16.1 ポイント下落）と、建設業と卸・小売業で改善となった一方、製造業とサービス業で悪化となり、サービス業はマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、建設業と製造業で改善、卸・小売業とサービス業で悪化の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 08 (n=373)	▲ 6.4	▲ 23.5	▲ 8.7	▲ 1.1	8.4
R 05. 11 (n=356)	▲ 5.6	▲ 10.7	▲ 7.9	▲ 11.0	7.0
R 06. 02 (n=365)	▲ 15.9	▲ 30.1	▲ 15.8	▲ 18.5	2.6
R 06. 05 (n=374)	▲ 10.5	▲ 29.3	▲ 9.5	▲ 16.8	14.8
<b>R 06. 08 (n=364)</b>	<b>▲ 14.0</b>	<b>▲ 23.4</b>	<b>▲ 15.0</b>	<b>▲ 16.1</b>	<b>▲ 1.3</b>
前回調査比	(▲ 3.5)	(5.9)	(▲ 5.5)	(0.7)	(▲ 16.1)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 11.5</b>	<b>▲ 6.5</b>	<b>▲ 10.6</b>	<b>▲ 21.5</b>	<b>▲ 6.2</b>
今回調査比	(2.5)	(16.9)	(4.4)	(▲ 5.4)	(▲ 4.9)

## (2) 業種別 D I 値の動向

### ① 建設業

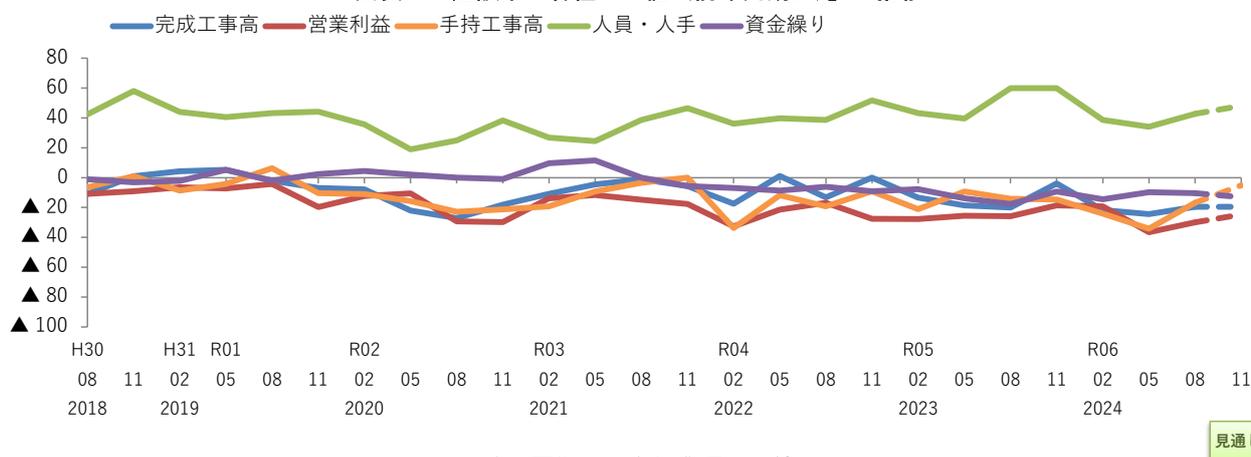
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲23.4（前回調査比 5.9 ポイント上昇）と、2 期連続の改善となっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「営業利益」「手持工事高」の 3 項目は改善となった一方、「資金繰り」は悪化となった。「人員・人手」はプラス幅が拡大した。各社のコメントによると、引き続き資材高騰に伴う利益率の低下が業況の下押し要因となっている状況がうかがえる。加えて、住宅ローンの金利上昇によって新設住宅の減少傾向が強まることへの懸念もみられた。また、豪雨災害の影響を受けて各所で工事中止が発生したが、今後は復旧工事による案件増加が見込まれるとする内容が複数寄せられた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲6.5（今回調査比 16.9 ポイント上昇）と大幅な改善が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
R 05.08 (n=85)	▲ 23.5	(▲ 4.9)	▲ 26.7	▲ 20.0	▲ 25.8	▲ 14.1	60.0	▲ 17.6
R 05.11 (n=75)	▲ 10.7	(12.8)	▲ 7.1	▲ 4.0	▲ 18.6	▲ 14.6	60.0	▲ 9.3
R 06.02 (n=83)	▲ 30.1	(▲ 19.4)	▲ 40.0	▲ 21.7	▲ 19.2	▲ 24.1	38.6	▲ 14.5
R 06.05 (n=82)	▲ 29.3	(0.8)	▲ 39.8	▲ 24.4	▲ 36.6	▲ 34.2	34.1	▲ 9.7
<b>R 06.08 (n=77)</b>	<b>▲ 23.4</b>	<b>(5.9)</b>	<b>▲ 22.0</b>	<b>▲ 19.5</b>	<b>▲ 29.9</b>	<b>▲ 16.9</b>	<b>42.8</b>	<b>▲ 10.4</b>
前回調査比	-	-	-	(4.9)	(6.7)	(17.3)	(8.7)	(▲ 0.7)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 6.5</b>	-	-	<b>▲ 19.5</b>	<b>▲ 24.7</b>	<b>▲ 5.2</b>	<b>48.1</b>	<b>▲ 13.0</b>
今回調査比	(16.9)	-	-	(0.0)	(5.2)	(11.7)	(5.3)	(▲ 2.6)

## ② 製造業

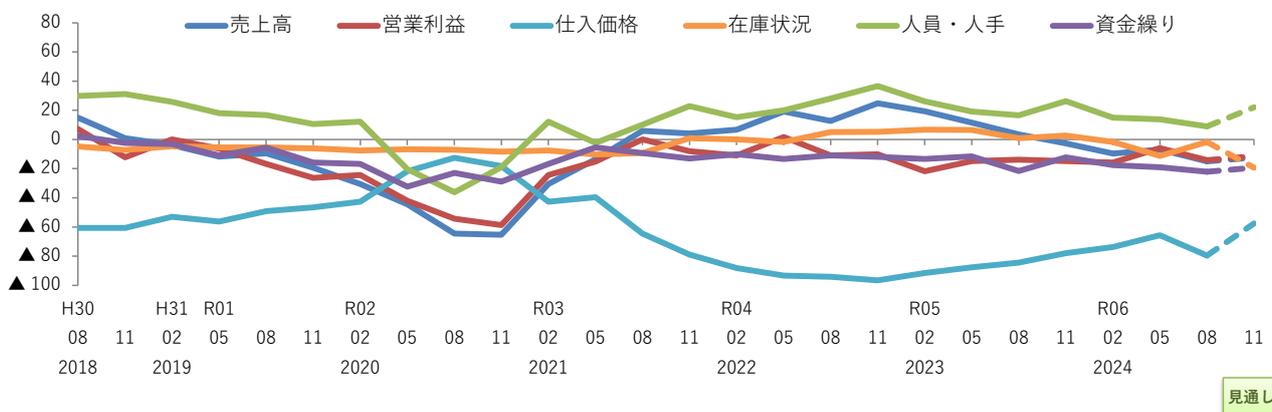
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲15.0（前回調査比 5.5 ポイント下落）と一進一退の動きとなっている。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「在庫状況」は改善したものの、「売上高」「営業利益」「仕入価格」「資金繰り」の4項目は悪化した。「人員・人手」は3期連続でプラス幅が縮小した。各社のコメントから、総じて原材料費や人件費などのコスト上昇が依然大きな負担となっている状況がうかがえた。また、これまで続いてきた先行発注の反動による取引先からの発注減少や中国からの受注低迷の影響を受けて、一部電子部品関連では弱含みの動きがみられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲10.6（今回調査比 4.4 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 7 製造業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

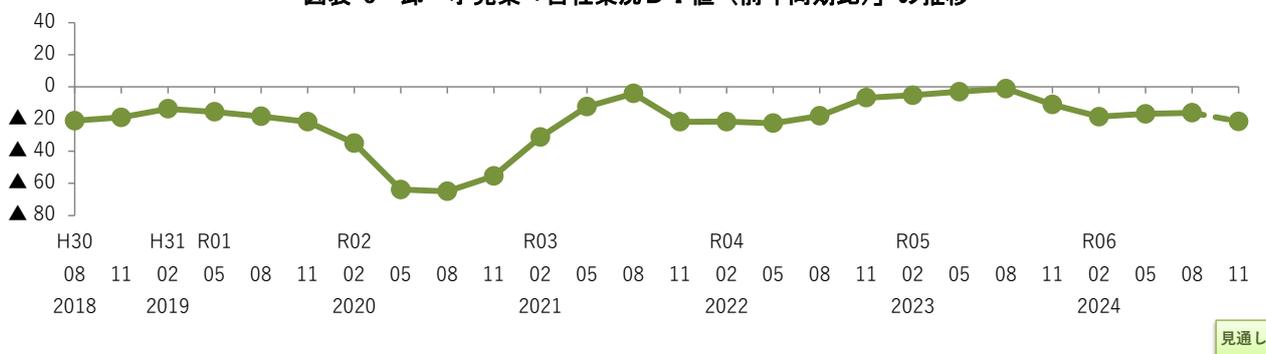
製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 05. 08 (n=115)	▲ 8.7	(▲ 12.0)	▲ 8.2	3.5	▲ 13.9	▲ 84.4	0.9	16.6	▲ 21.7
R 05. 11 (n=114)	▲ 7.9	(0.8)	▲ 12.2	▲ 2.7	▲ 14.9	▲ 78.0	2.6	26.3	▲ 12.3
R 06. 02 (n=114)	▲ 15.8	(▲ 7.9)	▲ 7.9	▲ 9.7	▲ 15.8	▲ 73.7	▲ 1.8	14.9	▲ 17.6
R 06. 05 (n=116)	▲ 9.5	(6.3)	▲ 7.1	▲ 6.9	▲ 6.0	▲ 65.6	▲ 11.2	13.8	▲ 19.0
<b>R 06. 08 (n=113)</b>	<b>▲ 15.0</b>	<b>(▲ 5.5)</b>	<b>▲ 7.8</b>	<b>▲ 15.0</b>	<b>▲ 14.2</b>	<b>▲ 79.6</b>	<b>▲ 1.7</b>	<b>8.9</b>	<b>▲ 22.1</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 8.1)	(▲ 8.2)	(▲ 14.0)	(9.5)	(▲ 4.9)	(▲ 3.1)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 10.6</b>	-	-	<b>▲ 12.4</b>	<b>▲ 11.5</b>	<b>▲ 57.5</b>	<b>▲ 19.4</b>	<b>22.1</b>	<b>▲ 19.4</b>
今回調査比	(4.4)	-	-	(2.6)	(2.7)	(22.1)	(▲ 17.7)	(13.2)	(2.7)

### ③ 卸・小売業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲16.1（前回調査比 0.7 ポイント上昇）と小幅ながら 2 期連続の改善となった。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」は小幅ながら改善、「売上高」「在庫状況」「資金繰り」の 3 項目は悪化となり、「営業利益」はほぼ横ばいの推移となった。「人員・人手」は 2 期ぶりにプラス幅が縮小した。各社のコメントをみると、消費者の日常的な購買行動は慎重傾向にあり、節約意識の高まりから特に嗜好品は買い控えの動きが進んでいるとする内容が目立った。また、青果卸売業などでは、さくらんぼや米をはじめ、天候不順による農作物の不作が売上の大幅な減少につながっており、収益状況の厳しさがうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲21.5（今回調査比 5.4 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

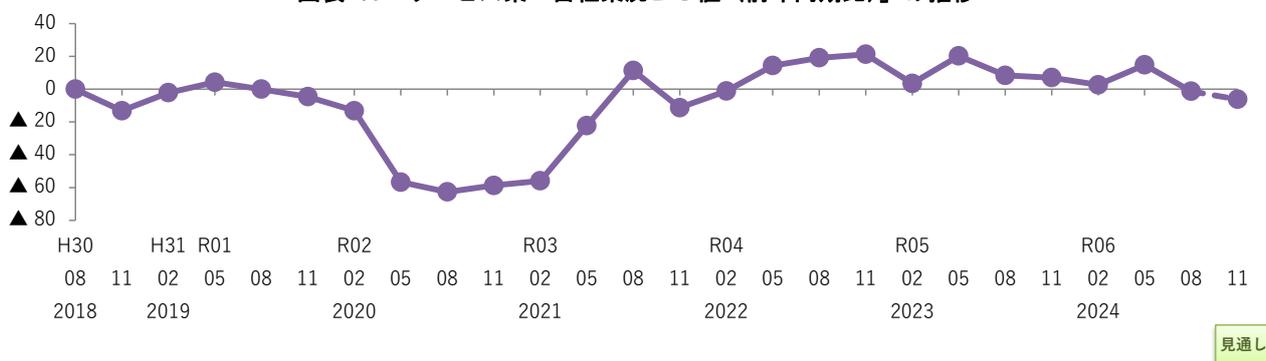
卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 05.08 (n=89)	▲ 1.1	(1.9)	▲ 1.0	5.7	▲ 9.0	▲ 75.3	▲ 9.0	20.2	▲ 12.4
R 05.11 (n=82)	▲ 11.0	(▲ 9.9)	▲ 7.9	7.3	▲ 14.6	▲ 68.3	▲ 12.2	18.3	▲ 13.5
R 06.02 (n=92)	▲ 18.5	(▲ 7.5)	▲ 7.3	▲ 9.8	▲ 4.3	▲ 68.4	▲ 9.8	23.9	▲ 8.7
R 06.05 (n=95)	▲ 16.8	(1.7)	▲ 15.2	▲ 8.4	▲ 12.7	▲ 70.5	▲ 8.5	25.3	▲ 4.2
<b>R 06.08 (n=93)</b>	<b>▲ 16.1</b>	<b>(0.7)</b>	<b>▲ 5.3</b>	<b>▲ 10.8</b>	<b>▲ 12.9</b>	<b>▲ 69.9</b>	<b>▲ 10.8</b>	<b>19.4</b>	<b>▲ 17.2</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 2.4)	(▲ 0.2)	(0.6)	(▲ 2.3)	(▲ 5.9)	(▲ 13.0)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 21.5</b>	-	-	<b>▲ 22.6</b>	<b>▲ 20.4</b>	<b>▲ 60.2</b>	<b>▲ 28.0</b>	<b>24.8</b>	<b>▲ 15.0</b>
今回調査比	(▲ 5.4)	-	-	(▲ 11.8)	(▲ 7.5)	(9.7)	(▲ 17.2)	(5.4)	(2.2)

### ④ サービス業

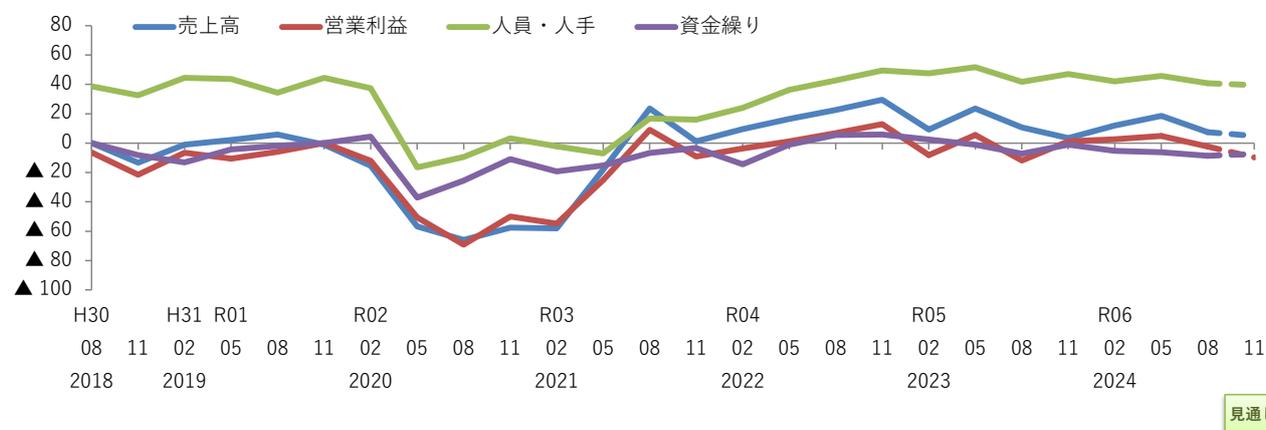
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲1.3（前回調査比 16.1 ポイント下落）と前期の好転から再び悪化の動きとなり、令和4年2月調査以来のマイナスに転じた。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目で悪化となり、「営業利益」はマイナスに転じた。「人員・人手」は2期ぶりにプラス幅が縮小した。各社のコメントから、一部観光業では円安を追い風にインバウンド観光客が増加しており、堅調な動きがみられた。一方で、運輸業や旅客運送業では、燃料費や車両費、人件費などの経費増加や時間外労働の上限規制に起因する人手不足といった課題が深刻さを増している。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲6.2（今回調査比 4.9 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 05.08 (n=84)	8.4	(▲ 11.8)	6.8	10.7	▲ 11.9	41.7	▲ 7.2
R 05.11 (n=85)	7.0	(▲ 1.4)	3.6	3.5	1.2	47.0	▲ 1.1
R 06.02 (n=76)	2.6	(▲ 4.4)	▲ 2.4	11.9	2.7	42.1	▲ 5.3
R 06.05 (n=81)	14.8	(12.2)	▲ 1.3	18.5	4.9	45.7	▲ 6.2
<b>R 06.08 (n=81)</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>(▲ 16.1)</b>	<b>▲ 7.4</b>	<b>7.4</b>	<b>▲ 2.4</b>	<b>40.7</b>	<b>▲ 8.6</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 11.1)	(▲ 7.3)	(▲ 5.0)	(▲ 2.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 6.2</b>	-	-	<b>4.9</b>	<b>▲ 9.8</b>	<b>39.5</b>	<b>▲ 7.4</b>
今回調査比	(▲ 4.9)	-	-	(▲ 2.5)	(▲ 7.4)	(▲ 1.2)	(1.2)

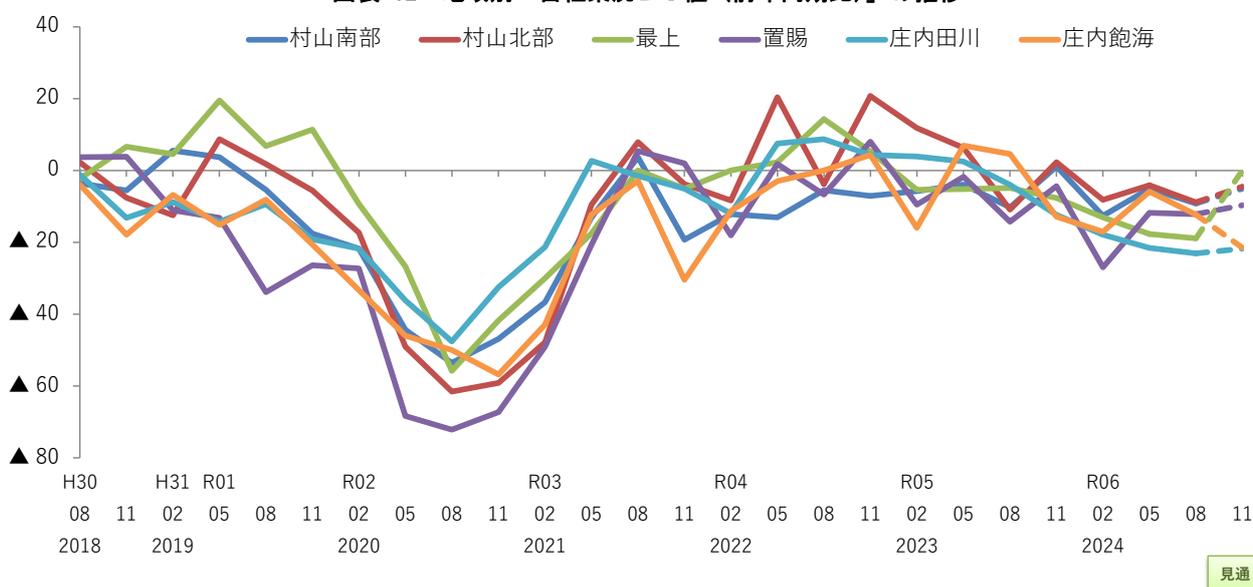
### 3. 地域別の動向

#### (1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲9.2（前回調査比4.1ポイント下落）、村山北部が▲8.9（前回調査比4.8ポイント下落）、最上が▲18.9（前回調査比1.2ポイント下落）、置賜が▲12.2（前回調査比0.4ポイント下落）、庄内田川が▲23.1（前回調査比1.5ポイント下落）、庄内飽海が▲12.3（前回調査比6.4ポイント下落）と、置賜はほぼ横ばいの推移、その他の5地域は悪化となった。

業況の先行き見通しをみると、庄内飽海は悪化、その他の5地域は改善の見込みとなっている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 05. 08 (n=373)	▲ 6.4	▲ 10.3	▲ 10.9	▲ 4.9	▲ 14.3	▲ 4.0	4.6
R 05. 11 (n=356)	▲ 5.6	1.1	2.3	▲ 7.7	▲ 4.4	▲ 12.4	▲ 12.9
R 06. 02 (n=365)	▲ 15.9	▲ 12.6	▲ 8.2	▲ 13.1	▲ 27.0	▲ 17.9	▲ 17.1
R 06. 05 (n=374)	▲ 10.5	▲ 5.1	▲ 4.1	▲ 17.7	▲ 11.8	▲ 21.6	▲ 5.9
<b>R 06. 08 (n=364)</b>	<b>▲ 14.0</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>▲ 8.9</b>	<b>▲ 18.9</b>	<b>▲ 12.2</b>	<b>▲ 23.1</b>	<b>▲ 12.3</b>
前回調査比	(▲ 3.5)	(▲ 4.1)	(▲ 4.8)	(▲ 1.2)	(▲ 0.4)	(▲ 1.5)	(▲ 6.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 11.5</b>	<b>▲ 5.1</b>	<b>▲ 4.5</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 9.7</b>	<b>▲ 21.8</b>	<b>▲ 21.5</b>
今回調査比	(2.5)	(4.1)	(4.4)	(18.9)	(2.5)	(1.3)	(▲ 9.2)

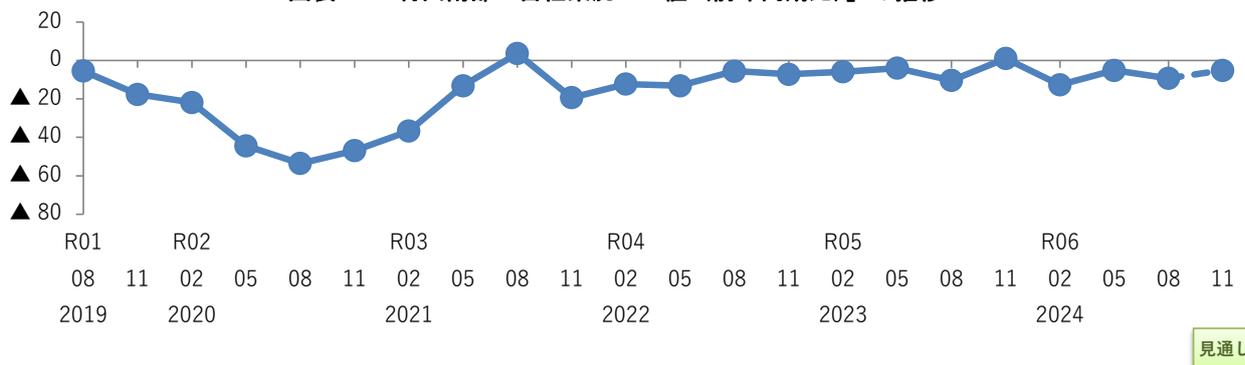
## (2) 地域別 D I 値の動向

### ① 村山南部

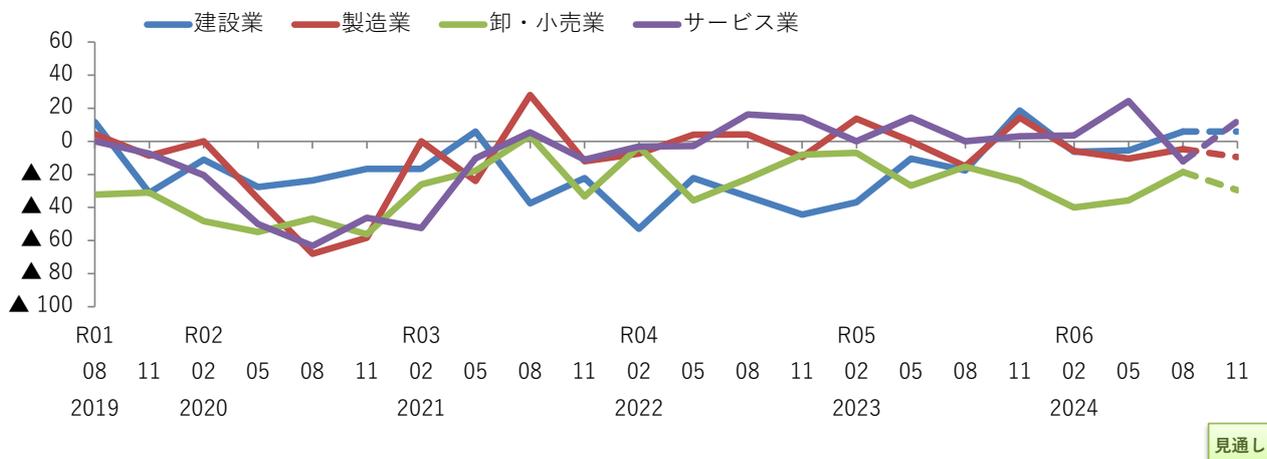
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲9.2（前回調査比 4.1 ポイント下落）と前期の好転から再び悪化の動きとなった。業種別にみると、サービス業は大幅な悪化となり、D I 値がマイナスに転じた。一方、建設業、製造業、卸・小売業は改善となり、建設業は D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲5.1（今回調査比 4.1 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 08 (n=97)	▲ 10.3	(▲ 6.4)	▲ 4.9	▲ 17.6	▲ 15.0	▲ 15.4	0.0
R 05. 11 (n=94)	1.1	(11.4)	▲ 10.3	18.7	14.3	▲ 24.0	3.1
R 06. 02 (n=87)	▲ 12.6	(▲ 13.7)	▲ 11.7	▲ 6.3	▲ 5.9	▲ 40.0	3.5
R 06. 05 (n=98)	▲ 5.1	(7.5)	▲ 11.5	▲ 5.5	▲ 10.5	▲ 35.8	24.3
<b>R 06. 08 (n=98)</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>(▲ 4.1)</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>5.9</b>	<b>▲ 4.8</b>	<b>▲ 18.5</b>	<b>▲ 12.1</b>
前回調査比	-	-	-	(11.4)	(5.7)	(17.3)	(▲ 36.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 5.1</b>	-	-	<b>5.9</b>	<b>▲ 9.5</b>	<b>▲ 29.6</b>	<b>12.1</b>
今回調査比	(4.1)	-	-	(0.0)	(▲ 4.7)	(▲ 11.1)	(24.2)

## ② 村山北部

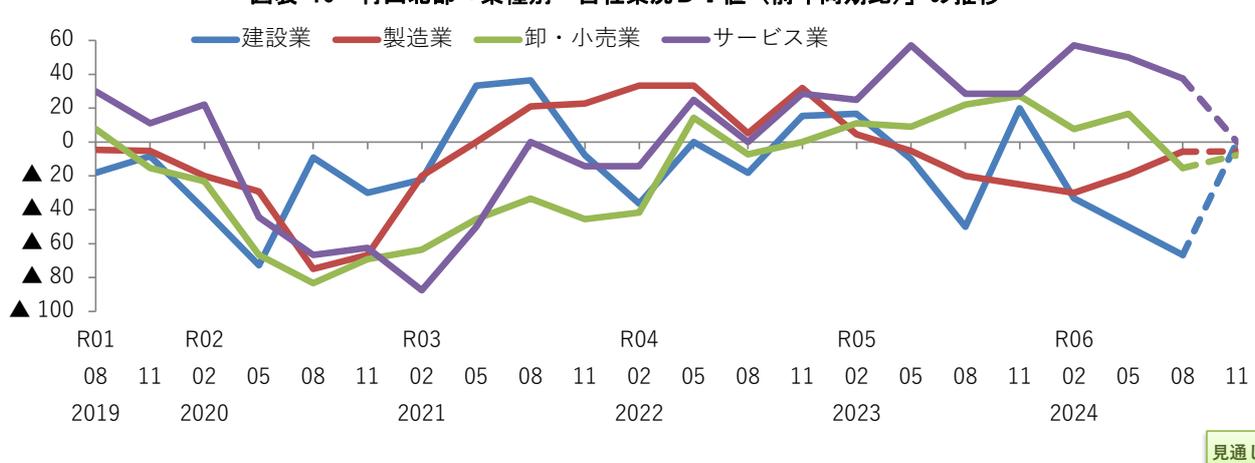
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲8.9（前回調査比 4.8 ポイント下落）と前期の好転から再び悪化の動きとなった。業種別にみると、製造業で改善となった一方、建設業、卸・小売業、サービス業で悪化となり、卸・小売業はDI値がマイナスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲4.5（今回調査比 4.4 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 08 (n=46)	▲ 10.9	(▲ 17.2)	▲ 6.4	▲ 50.0	▲ 20.0	22.2	28.6
R 05. 11 (n=43)	2.3	(13.2)	▲ 2.2	20.0	▲ 25.0	27.3	28.6
R 06. 02 (n=49)	▲ 8.2	(▲ 10.5)	▲ 9.3	▲ 33.3	▲ 30.0	7.7	57.1
R 06. 05 (n=49)	▲ 4.1	(4.1)	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 19.1	16.7	50.0
<b>R 06. 08 (n=45)</b>	<b>▲ 8.9</b>	<b>(▲ 4.8)</b>	<b>▲ 10.2</b>	<b>▲ 66.7</b>	<b>▲ 5.6</b>	<b>▲ 15.4</b>	<b>37.5</b>
前回調査比	-	-	-	(▲ 16.7)	(13.5)	(▲ 32.1)	(▲ 12.5)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 4.5</b>	-	-	<b>0.0</b>	<b>▲ 5.5</b>	<b>▲ 7.7</b>	<b>0.0</b>
今回調査比	(4.4)	-	-	(66.7)	(0.1)	(7.7)	(▲ 37.5)

### ③ 最上

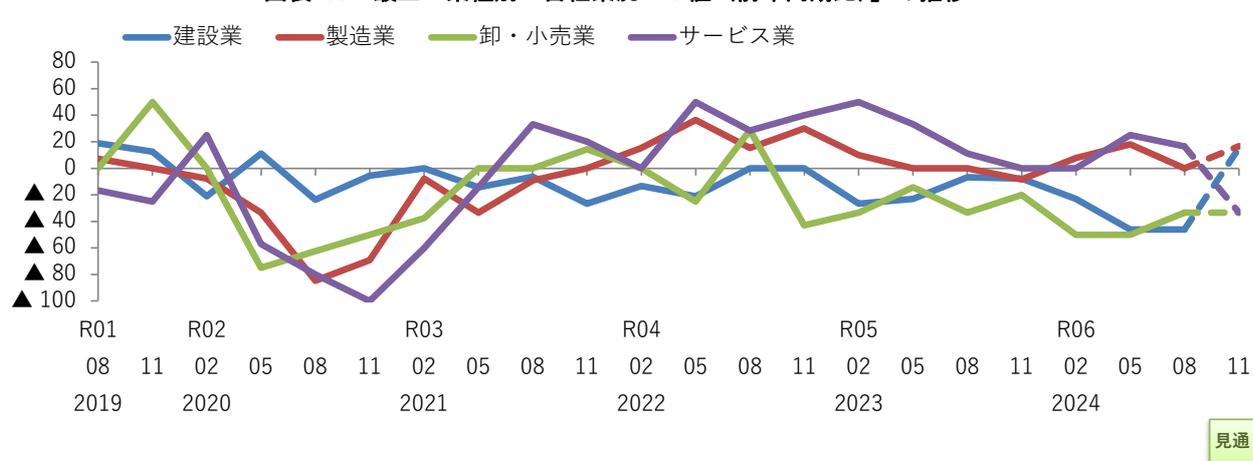
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲18.9（前回調査比 1.2 ポイント下落）と 4 期連続の悪化となった。業種別にみると、建設業はほぼ横ばいの推移、卸・小売業は大幅な改善、製造業とサービス業は悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が 0.0（今回調査比 18.9 ポイント上昇）と大幅な改善が見込まれている。

図表 17 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

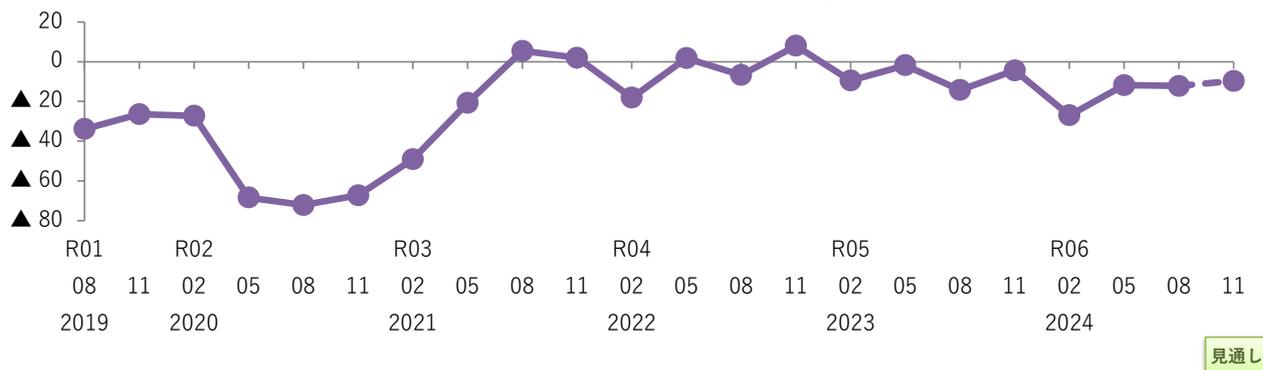
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 08 (n=41)	▲ 4.9	(0.3)	▲ 15.4	▲ 6.7	0.0	▲ 33.3	11.1
R 05. 11 (n=39)	▲ 7.7	(▲ 2.8)	▲ 7.4	▲ 7.7	▲ 8.4	▲ 20.0	0.0
R 06. 02 (n=38)	▲ 13.1	(▲ 5.4)	▲ 15.4	▲ 23.1	7.7	▲ 50.0	0.0
R 06. 05 (n=34)	▲ 17.7	(▲ 4.6)	▲ 21.0	▲ 46.2	18.2	▲ 50.0	25.0
<b>R 06. 08 (n=37)</b>	<b>▲ 18.9</b>	<b>(▲ 1.2)</b>	<b>▲ 20.6</b>	<b>▲ 46.1</b>	<b>0.0</b>	<b>▲ 33.3</b>	<b>16.6</b>
前回調査比	-	-	-	(0.1)	(▲ 18.2)	(16.7)	(▲ 8.4)
<b>先行き見通し</b>	<b>0.0</b>	-	-	<b>15.4</b>	<b>16.7</b>	<b>▲ 33.3</b>	<b>▲ 33.3</b>
今回調査比	(18.9)	-	-	(61.5)	(16.7)	(0.0)	(▲ 49.9)

### ④ 置 賜

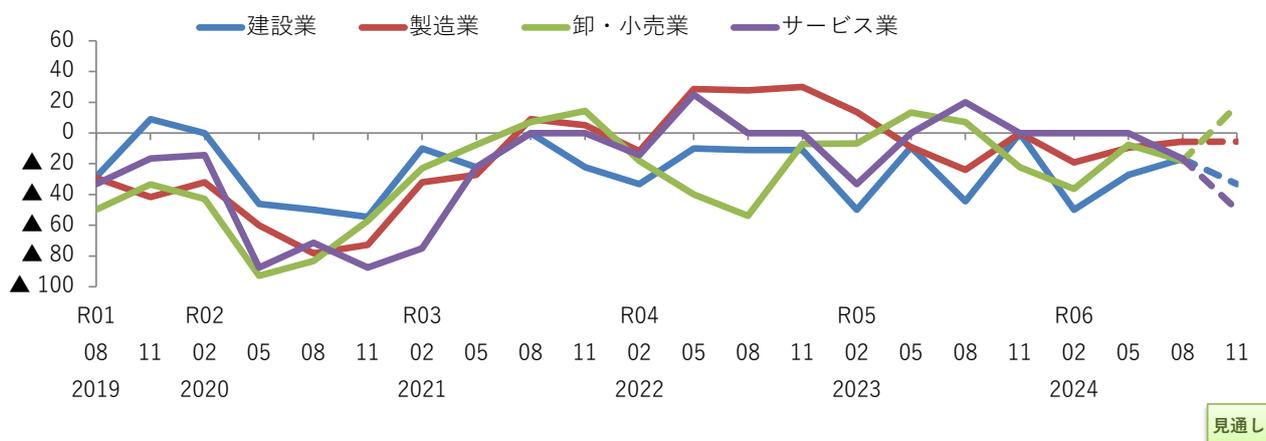
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.2（前回調査比 0.4 ポイント下落）とほぼ横ばいの推移となった。業種別にみると、建設業と製造業で改善となった一方、卸・小売業とサービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲9.7（今回調査比 2.5 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

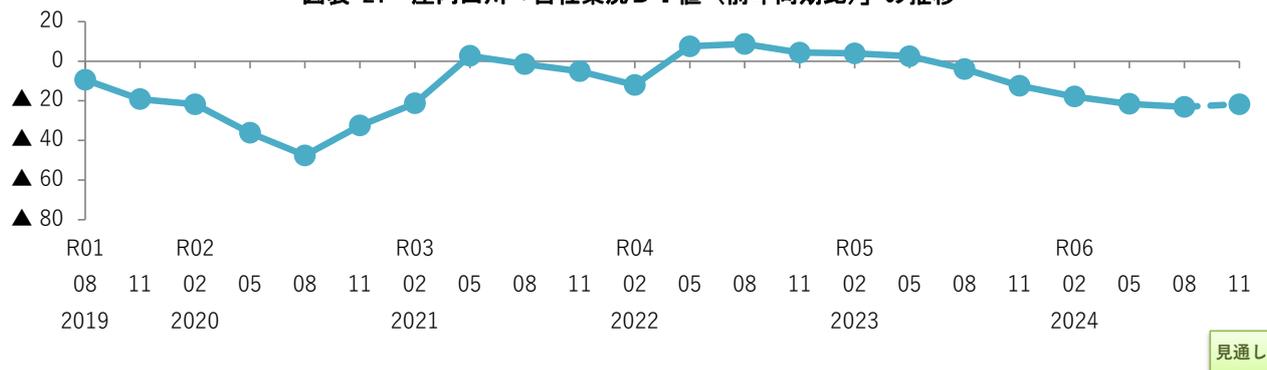
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 08 (n=49)	▲ 14.3	(▲ 12.5)	1.8	▲ 44.5	▲ 23.9	7.2	20.0
R 05. 11 (n=45)	▲ 4.4	(9.9)	▲ 12.3	0.0	0.0	▲ 22.2	0.0
R 06. 02 (n=48)	▲ 27.0	(▲ 22.6)	▲ 26.7	▲ 50.0	▲ 19.1	▲ 36.3	0.0
R 06. 05 (n=51)	▲ 11.8	(15.2)	▲ 16.7	▲ 27.3	▲ 9.5	▲ 7.7	0.0
<b>R 06. 08 (n=41)</b>	<b>▲ 12.2</b>	<b>(▲ 0.4)</b>	<b>3.9</b>	<b>▲ 16.7</b>	<b>▲ 5.6</b>	<b>▲ 18.2</b>	<b>▲ 16.7</b>
前回調査比	-	-	-	(10.6)	(3.9)	(▲ 10.5)	(▲ 16.7)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 9.7</b>	-	-	<b>▲ 33.3</b>	<b>▲ 5.5</b>	<b>18.2</b>	<b>▲ 50.0</b>
今回調査比	(2.5)	-	-	(▲ 16.6)	(0.1)	(36.4)	(▲ 33.3)

### ⑤ 庄内田川

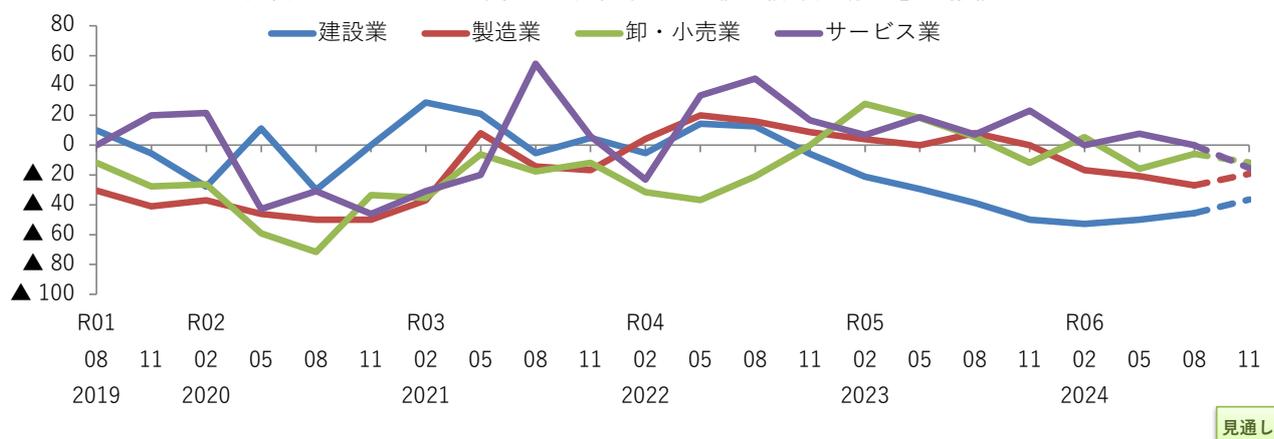
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲23.1（前回調査比 1.5 ポイント下落）と 8 期連続で悪化となった。業種別にみると、建設業と卸・小売業で改善となった一方、製造業とサービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲21.8（今回調査比 1.3 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 21 庄内田川「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



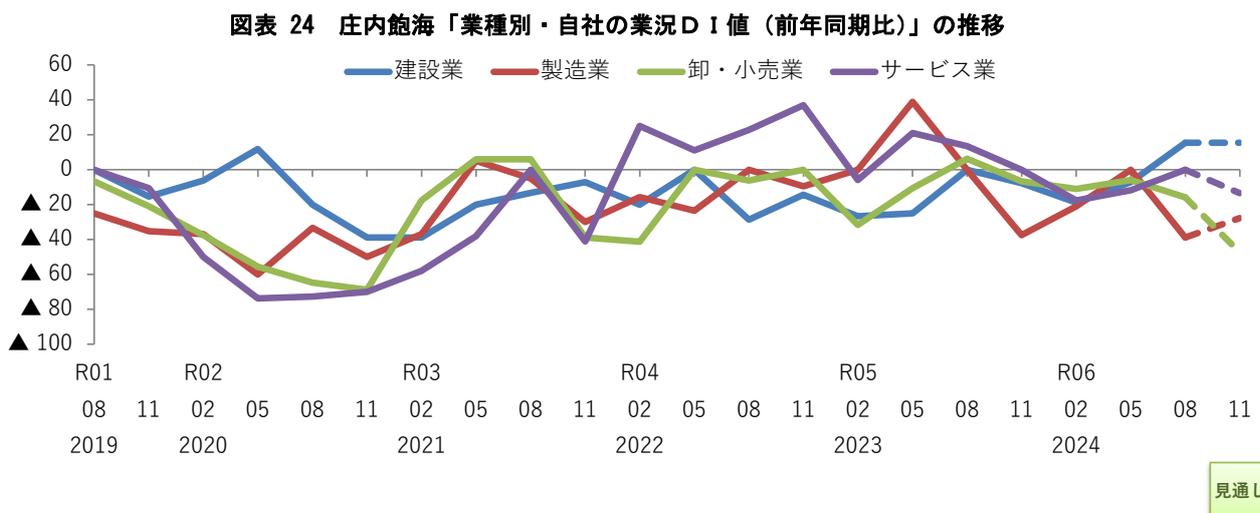
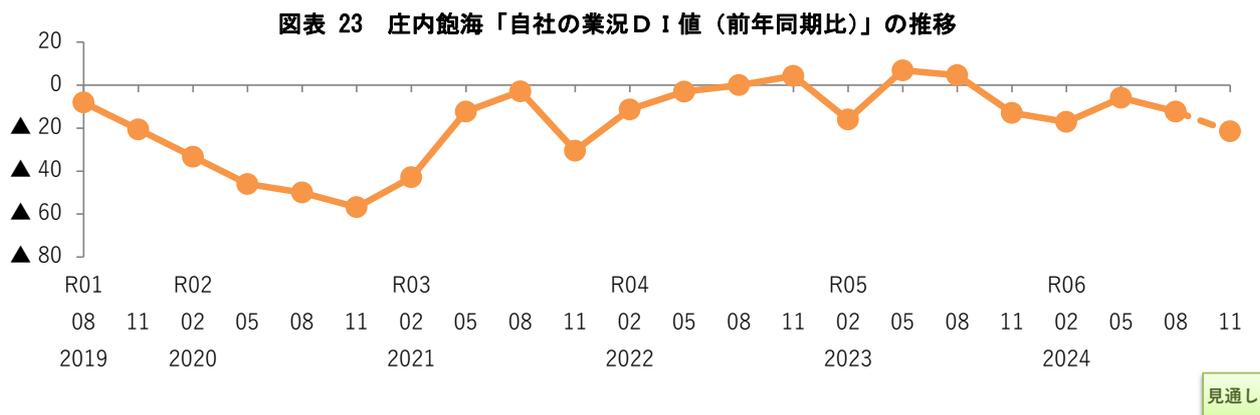
前年同期比の自社業況DI値

庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 08 (n=75)	▲ 4.0	(▲ 6.5)	▲ 6.2	▲ 38.8	8.0	5.6	7.1
R 05. 11 (n=73)	▲ 12.4	(▲ 8.4)	▲ 2.7	▲ 50.0	0.0	▲ 11.8	23.1
R 06. 02 (n=73)	▲ 17.9	(▲ 5.5)	▲ 8.2	▲ 52.7	▲ 16.7	5.3	0.0
R 06. 05 (n=74)	▲ 21.6	(▲ 3.7)	▲ 21.9	▲ 50.0	▲ 20.8	▲ 15.8	7.7
<b>R 06. 08 (n=78)</b>	<b>▲ 23.1</b>	<b>(▲ 1.5)</b>	<b>▲ 13.5</b>	<b>▲ 45.5</b>	<b>▲ 27.0</b>	<b>▲ 5.9</b>	<b>0.0</b>
前回調査比	-	-	-	(4.5)	(▲ 6.2)	(9.9)	(▲ 7.7)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 21.8</b>	-	-	<b>▲ 36.4</b>	<b>▲ 19.2</b>	<b>▲ 11.7</b>	<b>▲ 15.4</b>
今回調査比	(1.3)	-	-	(9.1)	(7.8)	(▲ 5.8)	(▲ 15.4)

## ⑥ 庄内飽海

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲12.3（前回調査比 6.4 ポイント下落）と前期の好転から再び悪化の動きとなった。業種別にみると、製造業と卸・小売業で悪化となった一方、建設業とサービス業で改善となり、建設業で D I 値がプラスに転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲21.5（今回調査比 9.2 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 05. 08 (n=65)	4.6	(▲ 2.3)	▲ 13.9	0.0	0.0	6.2	13.4
R 05. 11 (n=62)	▲ 12.9	(▲ 17.5)	▲ 3.1	▲ 7.7	▲ 37.5	▲ 6.7	0.0
R 06. 02 (n=70)	▲ 17.1	(▲ 4.2)	▲ 12.9	▲ 18.8	▲ 21.0	▲ 11.1	▲ 17.7
R 06. 05 (n=68)	▲ 5.9	(11.2)	▲ 10.0	▲ 7.1	0.0	▲ 5.9	▲ 11.8
<b>R 06. 08 (n=65)</b>	<b>▲ 12.3</b>	<b>(▲ 6.4)</b>	<b>▲ 13.2</b>	<b>15.4</b>	<b>▲ 38.8</b>	<b>▲ 15.8</b>	<b>0.0</b>
前回調査比	-	-	-	(22.5)	(▲ 38.8)	(▲ 9.9)	(11.8)
<b>先行き見通し</b>	<b>▲ 21.5</b>	-	-	<b>15.4</b>	<b>▲ 27.7</b>	<b>▲ 47.4</b>	<b>▲ 13.4</b>
今回調査比	(▲ 9.2)	-	-	(0.0)	(11.1)	(▲ 31.6)	(▲ 13.4)

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

**山形県**

今期の業況 → 来期の見通し

**庄内飽海**

→

**最上**

→

**庄内田川**

→

**村山北部**

→

**置賜**

→

**村山南部**

→

今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

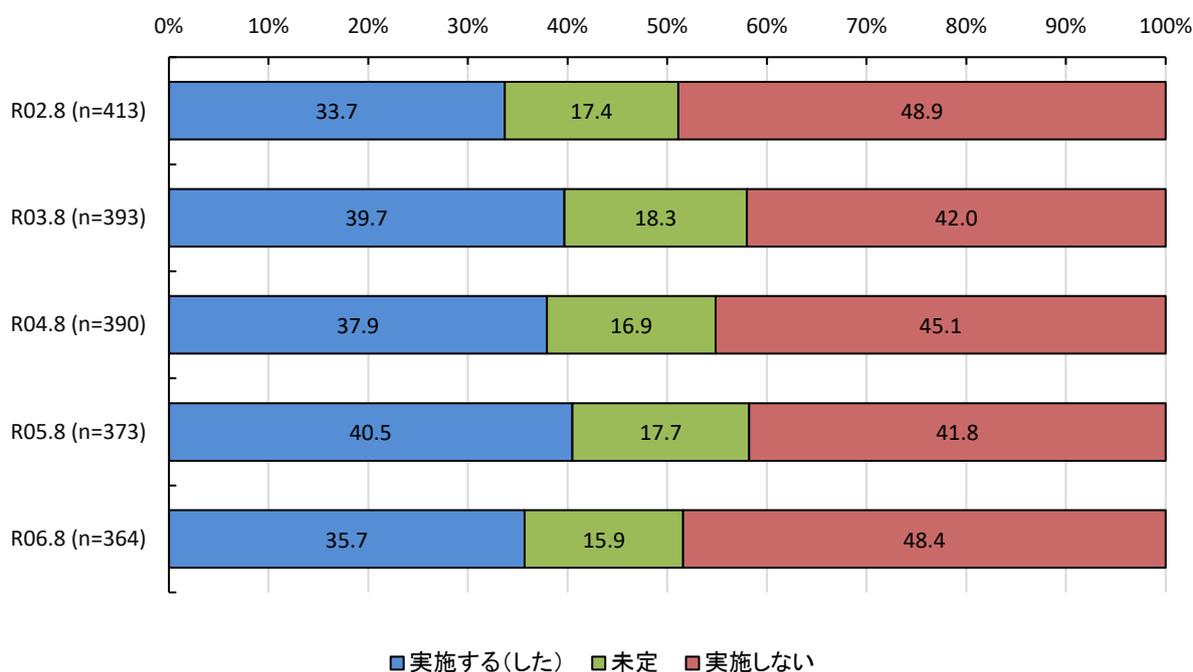
### III. 特別調査

#### 1. 設備投資動向について

##### (1) 設備投資動向

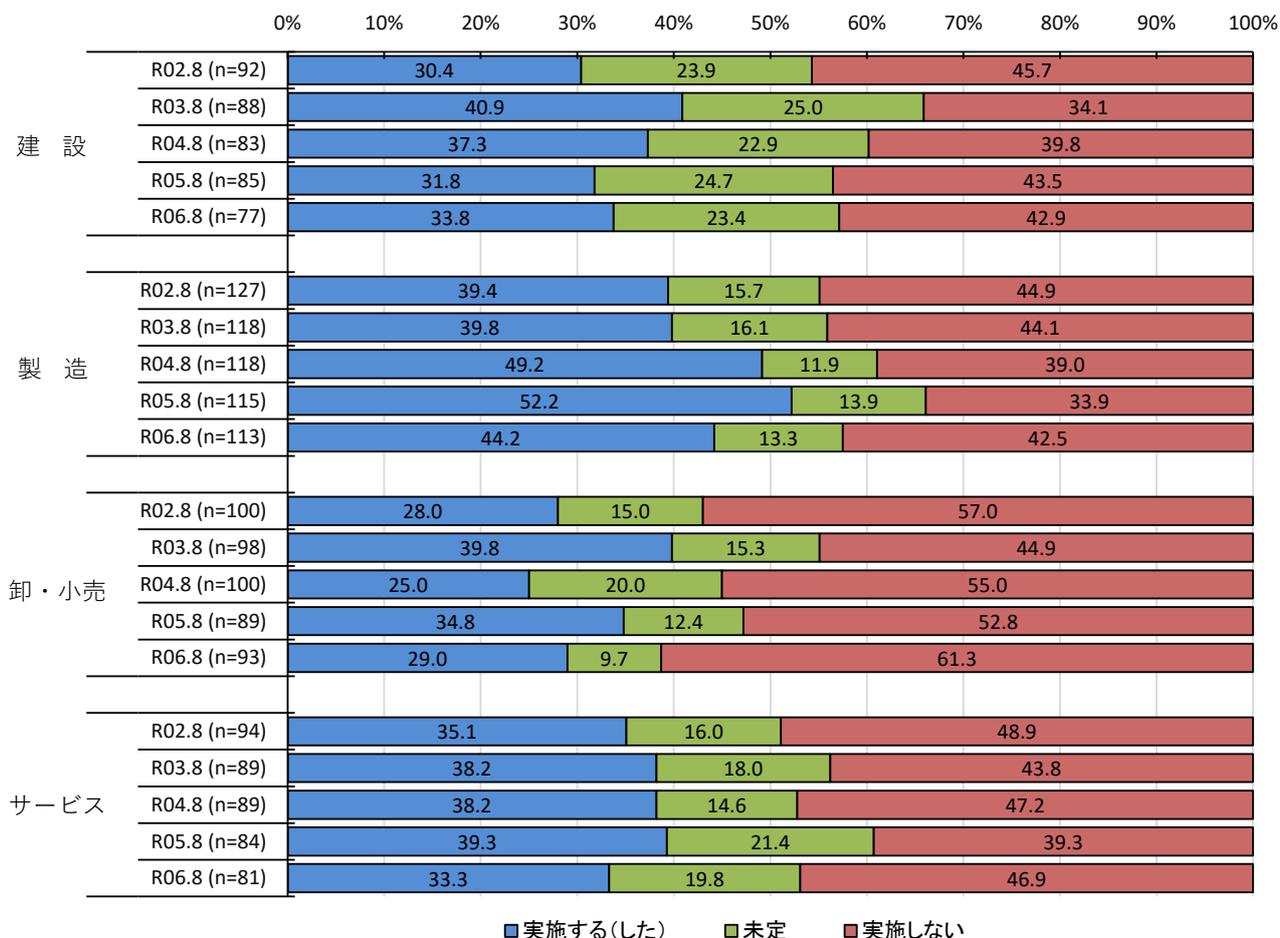
令和 6 年度中に設備投資を「実施する（した）」と回答した企業の割合は 35.7%と、前年度に比べ 4.8 ポイントの低下となった。一方、「実施しない」は 48.4%と 6.6 ポイントの上昇となった。

図表 25 「設備投資動向」の推移



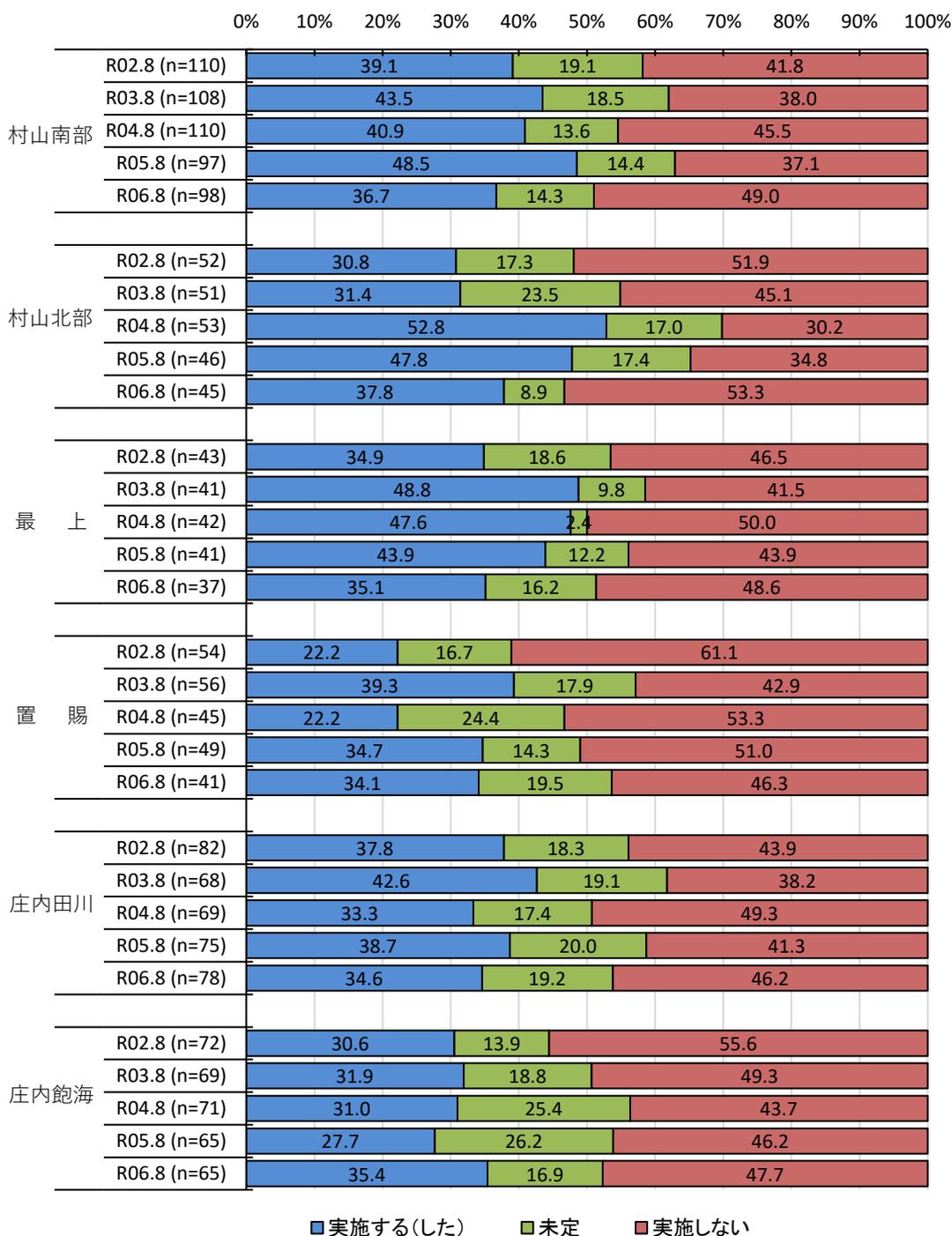
業種別にみると、「実施する（した）」と回答した企業の割合は、建設業が 33.8%（前年度比 2.0 ポイント上昇）、製造業が 44.2%（前年度比 8.0 ポイント低下）、卸・小売業が 29.0%（前年度比 5.8 ポイント低下）、サービス業が 33.3%（前年度比 6.0 ポイント低下）と、建設業で上昇、製造業、卸・小売業、サービス業で低下となった。

図表 26 業種別 「設備投資動向」の推移



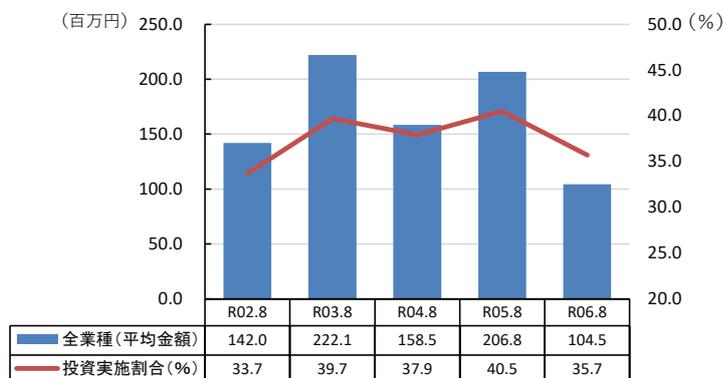
地域別にみると、「実施する(した)」と回答した企業の割合は、村山南部は 36.7% (前年度比 11.8 ポイント低下)、村山北部は 37.8% (前年度比 10.0 ポイント低下)、最上は 35.1% (前年度比 8.8 ポイント低下)、置賜は 34.1% (前年度比 0.6 ポイント低下)、庄内田川は 34.6% (前年度比 4.1 ポイント低下)、庄内飽海は 35.4% (前年度比 7.7 ポイント上昇) となり、庄内飽海で上昇となった一方、その他の 5 地域で低下となった。

図表 27 地域別 「設備投資動向」の推移



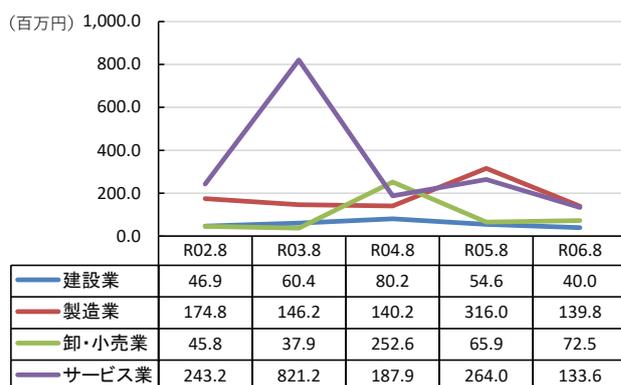
## (2) 設備投資金額

図表 28 全業種 「平均設備投資金額と実施割合」の推移



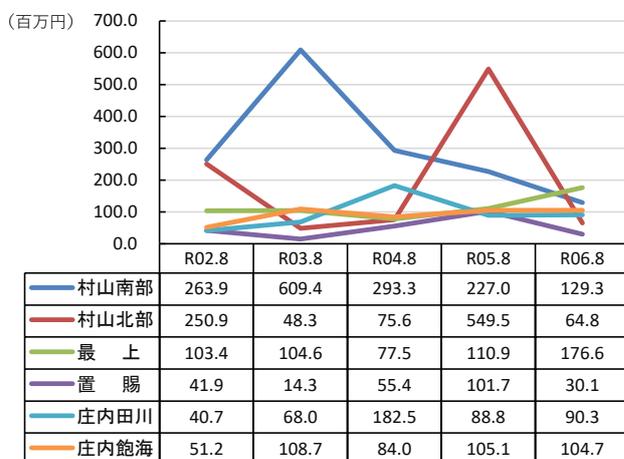
設備投資を「実施する(した)」と回答した企業に投資額を尋ねたところ、1社あたり平均設備投資金額(予定含む)は1億450万円で、前年度より1億230万円減少した。

図表 29 業種別 「平均設備投資金額」の推移



業種別にみると、建設業が4,000万円(前年度比1,460万円減少)、製造業が1億3,980万円(前年度比1億7,620万円減少)、卸・小売業が7,250万円(前年度比660万円増加)、サービス業が1億3,360万円(前年度比1億3,040万円減少)となり、卸・小売業で増加、建設業、製造業、サービス業で減少となった。

図表 30 地域別 「平均設備投資金額」の推移

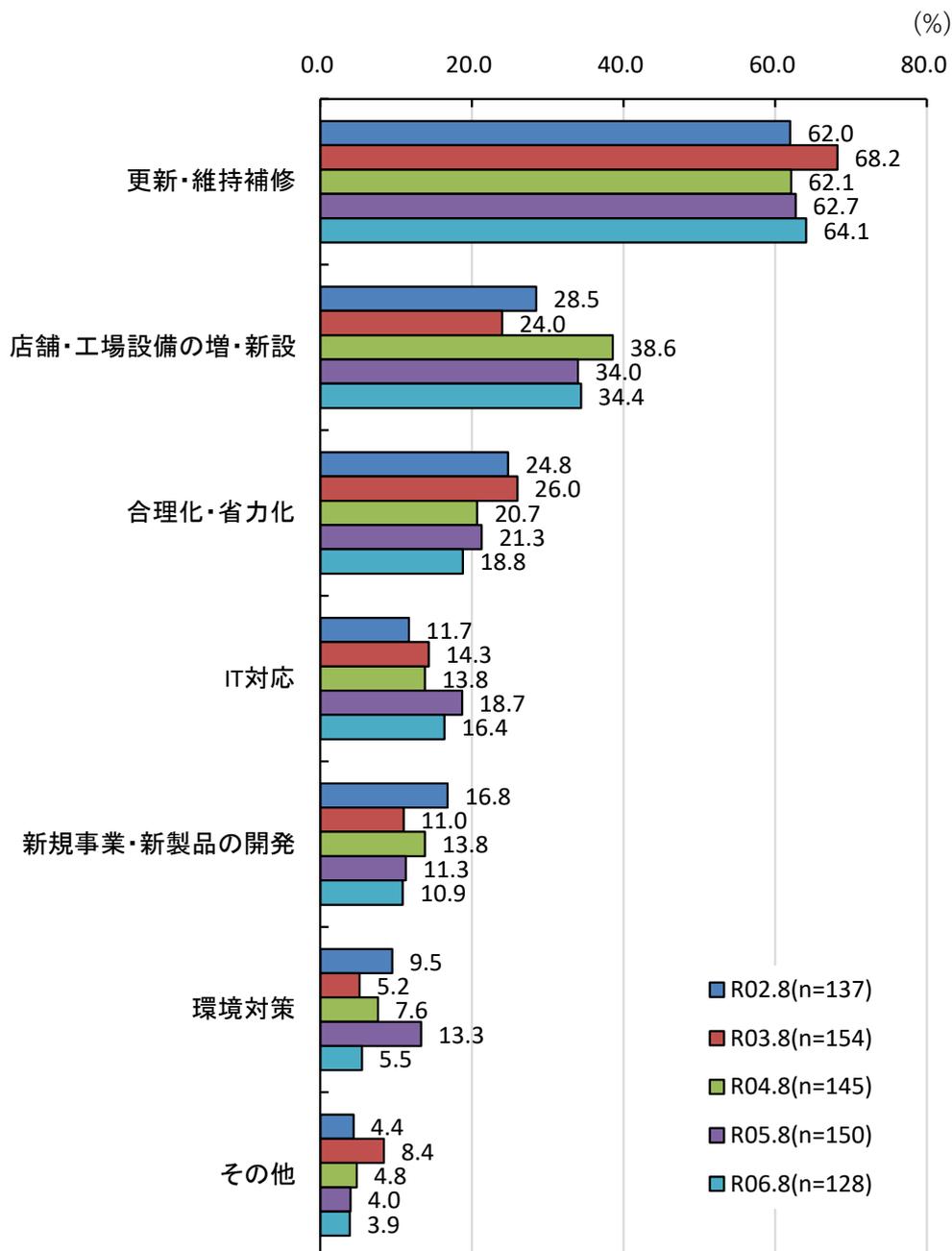


地域別にみると、村山南部が1億2,930万円(前年度比9,770万円減少)、村山北部が6,480万円(前年度比4億8,470万円減少)、最上が1億7,660万円(前年度比6,570万円増加)、置賜が3,010万円(前年度比7,160万円減少)、庄内田川が9,030万円(前年度比150万円増加)、庄内飽海が1億470万円(前年度比40万円減少)となり、最上と庄内田川で増加、村山南部、村山北部、置賜、庄内飽海で減少となった。

### (3) 設備投資目的

設備投資の主な目的について尋ねたところ（複数回答）、「更新・維持補修」と回答した企業の割合が 64.1%と最も高くなった。次いで、「店舗・工場設備の増・新設」が 34.4%、「合理化・省力化」が 18.8%、「IT 対応」が 16.4%と続いた。

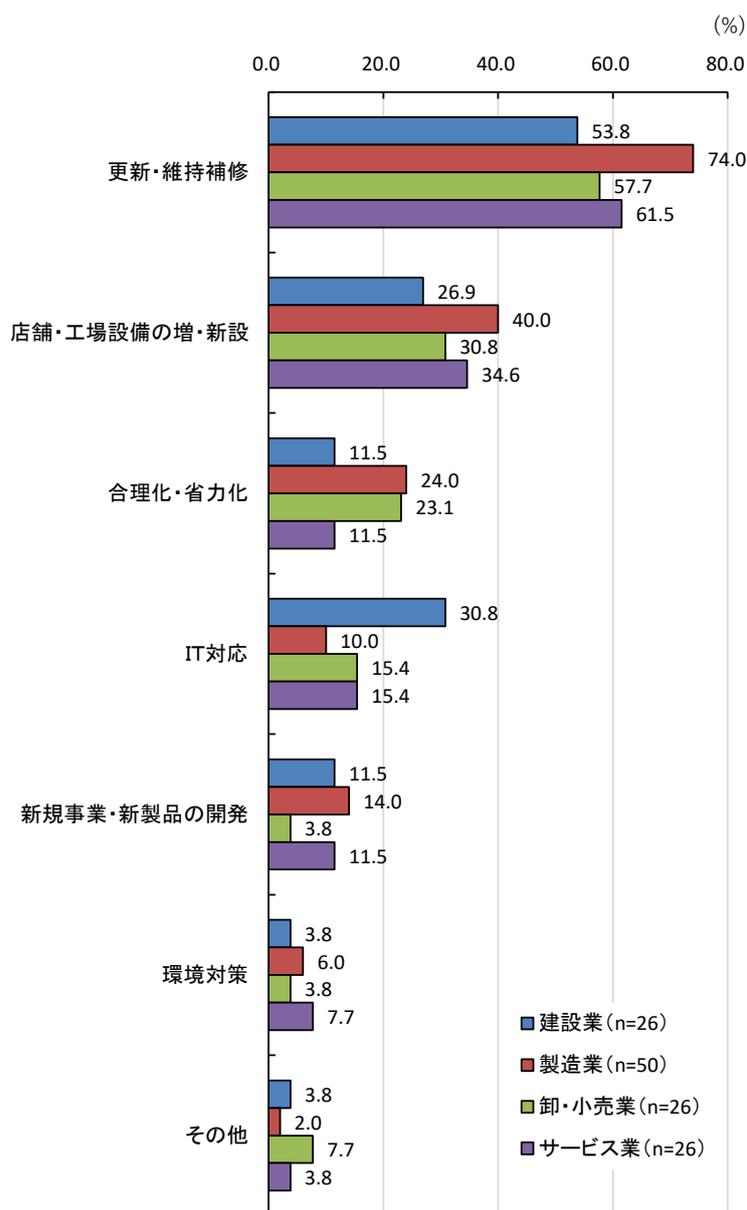
図表 31 「設備投資の目的」の推移（複数回答）



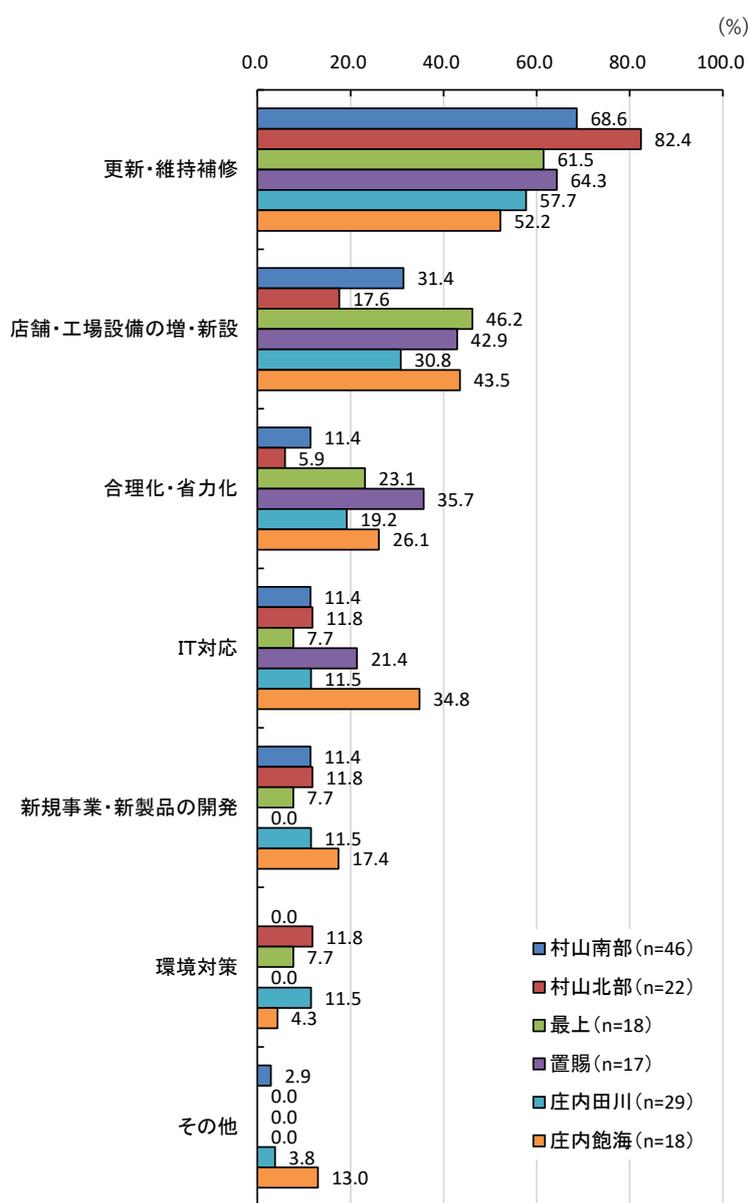
業種別に投資目的をみると、すべての業種で、「更新・維持補修」が最も高い割合となった。建設業では「IT対応」が第2位となっているが、その他の3業種では「店舗・工場設備の増・新設」が第2位となっている。

地域別にみると、すべての地域で「更新・維持補修」が最も高い割合となり、次いで「店舗・工場設備の増・新設」が第2位となっている。第3位以下は地域によってばらつきがみられる。

図表 32 業種別「設備投資の目的」(複数回答)



図表 33 地域別「設備投資の目的」(複数回答)

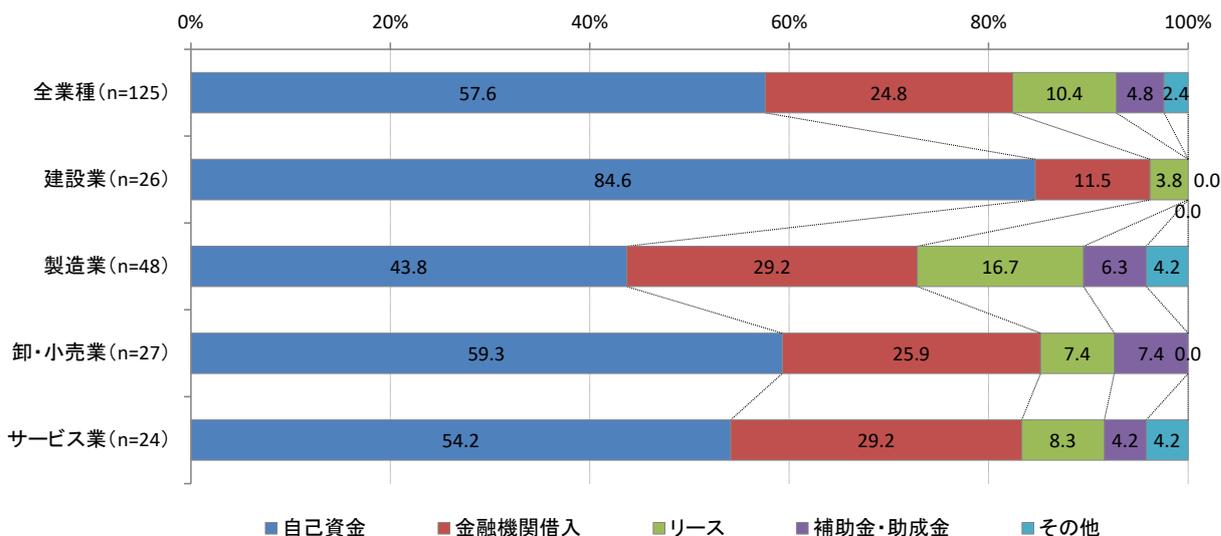


## (4) 設備資金調達方法

設備資金の主な調達方法について尋ねたところ、全業種でみると「自己資金」と回答した企業の割合が 57.6%と最も高くなった。次いで、「金融機関借入」が 24.8%、「リース」が 10.4%、「補助金・助成金」が 4.8%と続いた。

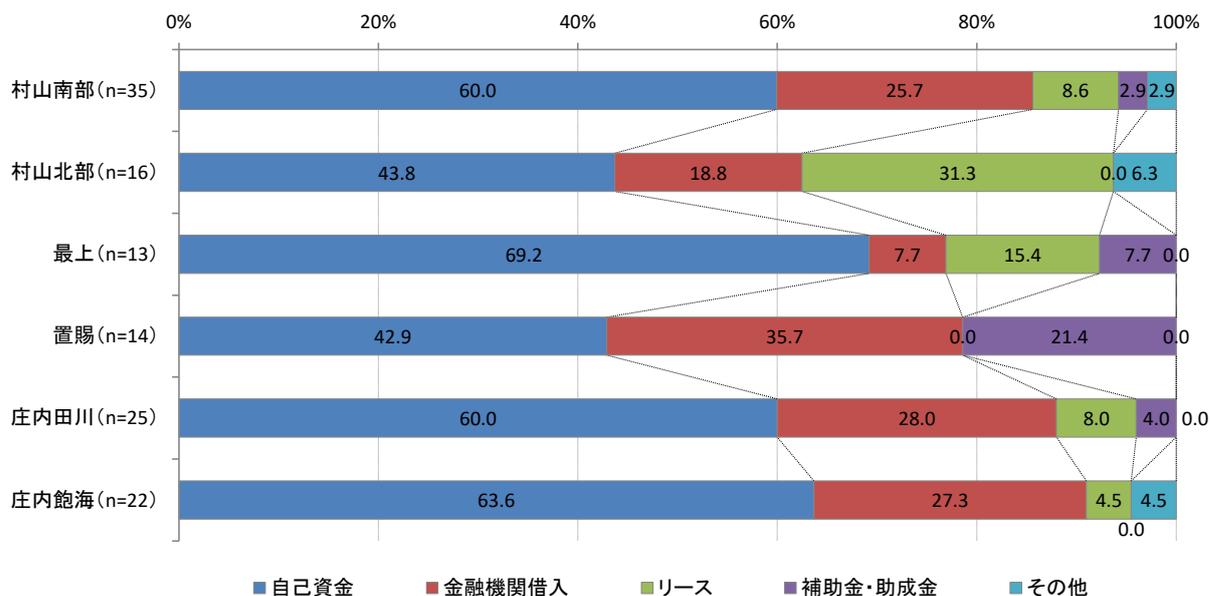
業種別にみると、すべての業種で「自己資金」が最も高い割合となった。特に、建設業では 8 割以上を占めており、その他の 3 業種と比べて高い割合となっている。

図表 34 業種別「設備資金調達方法」



地域別にみると、すべての地域で「自己資金」が最も高い割合となった。村山北部、最上では「リース」が第 2 位となっているが、その他の 4 地域では「金融機関借入」が第 2 位となっている。

図表 35 地域別「設備資金調達方法」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	22	33	41	50	146
村山北部	20	29	17	17	83
最上	20	18	8	17	63
置賜	23	27	24	11	85
庄内田川	29	37	27	28	121
庄内飽海	31	31	31	34	127
合計	145	175	148	157	625

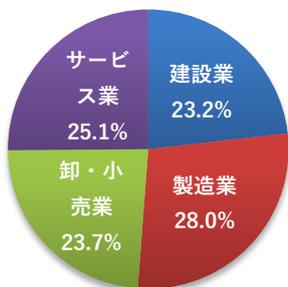
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	17	21	27	33	98
村山北部	6	18	13	8	45
最上	13	12	6	6	37
置賜	6	18	11	6	41
庄内田川	22	26	17	13	78
庄内飽海	13	18	19	15	65
合計	77	113	93	81	364

(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	77.3	63.6	65.9	66.0	67.1
村山北部	30.0	62.1	76.5	47.1	54.2
最上	65.0	66.7	75.0	35.3	58.7
置賜	26.1	66.7	45.8	54.5	48.2
庄内田川	75.9	70.3	63.0	46.4	64.5
庄内飽海	41.9	58.1	61.3	44.1	51.2
合計	53.1	64.6	62.8	51.6	58.2

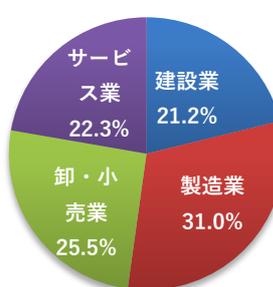
サンプル割合（業種別）



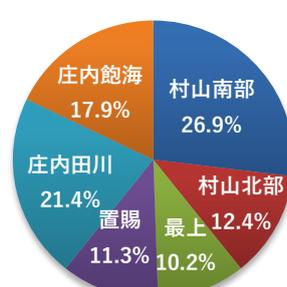
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 6 年 8 月 1 日(木)～16 日(金)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製(商)品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況DI値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況DI値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる

ちなみに、他のDI値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-2 1 荘銀山形ビル8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : <https://www.fir.co.jp/>